

3月13日(水)、14日(木) 分子研研究会 明大寺地区実験棟 301-303号室

金属錯体機能の根源を探る～分子構造とその変化様式の探求最前線

金属錯体は物質の機能を発現させる際の鍵となる構造素子として極めて重要な位置づけにある。機能材料や触媒などの多岐に渡る分野で金属錯体の機能を利用した研究がおこなわれているが、金属錯体機能の根源はその配位構造と変化様式に基づいている。本分子研研究会では、錯体分子、金属クラスター、金属ナノ粒子の構造制御と変化様式に焦点を当て、これらの基礎的理解の最新の状況と機能創出への展望を議論する。

プログラム【招待講演 40分+質疑応答 5分】、【若手招待講演 25分+質疑応答 5分】

2013年3月13日(水)

13:00-13:10 研究会趣旨説明 村橋 哲郎(分子科学研究所)

セッション I: 座長 黒田 孝義(近畿大学)

13:10-13:55 西原 寛(東京大学理)

「錯体分子ワイヤ・ネットワークの界面配位プログラミング合成と電子機能」

若手講演 13:55-14:25 堀毛 悟史(京都大学工)

「配位高分子構造のダイナミクスが誘起するイオン伝導機能」

<14:25-14:50 写真撮影、コーヒープレイク>

セッション II: 座長 水田 勉(広島大学)

14:50-15:35 栗原 正人・富樫 貴成(山形大学理)

「古典的錯体であったシュウ酸銀に秘められていた機能、今それが産業界が待望する高機能銀ナノ微粒子に生まれ変わる！」

15:35-16:20 佃 達哉(東京大学理)

「新しい界面構造に基づく金属クラスターの有機修飾」

セッション III: 座長 村橋 哲郎(分子科学研究所)

若手講演 16:20-16:50 山下 誠(中央大学理工)

「含ホウ素多座配位子を有する金属錯体の構造と機能」

16:50-17:35 小澤 文幸(京都大学化学研究所)

「ホスファールケン配位錯体の構造と反応」

<懇親会> 18:00-20:00 分子研明大寺地区 職員会館 2F

2013年3月14日(木)

セッションIV: 座長 正岡 重行 (分子科学研究所)

若手講演 9:30-10:00 砂田 祐輔 (九州大学先導化学研究所)

「配位不飽和性を鍵とする高反応性鉄錯体の開発」

若手講演 10:00-10:30 佐藤 俊介 (豊田中央研究所)

「金属錯体を用いたCO₂光還元反応」

<10:30-10:45 コーヒーブレイク>

セッションV: 座長 中沢 浩 (大阪市立大学)

10:45-11:30 酒井 健 (九州大学理)

「分子性触媒を基盤とした水可視光分解系の開拓」

11:30-12:15 山下 正廣 (東北大学理)

「単分子量子磁石を用いた量子分子スピントロニクス最前線」

12:15-12:20 閉会挨拶 伊東 忍 (大阪大学)

(解散)